

# 京都舞鶴港スマート・エコ・エネルギーマスタープラン

## 第一回検討会議 議事概要

- 1 日時：平成 29 年 8 月 4 日（金）午後 1 時 30 分～ 3 時 30 分
- 2 場所：舞鶴 21 ビル 2 階 第 1・2・3 会議室
- 3 出席委員（五十音順、敬称略）  
安達委員 上治委員 近江委員 小林委員 篠原委員 高井委員 田端委員 内藤委員 沼田委員  
早坂委員 盛岡委員 山本委員  
（御欠席）  
上村委員 木下委員
- 4 議事
  - (1) 挨拶
  - (2) 座長の選出について
    - ・内藤委員を座長に選出した。
  - (3) マスタープラン策定の背景について
  - (4) マスタープランの方向性について
- 5 主な意見
  - (1) マスタープランの方向性について
    - ・舞鶴港の様々な情報収集を進め、IoT の導入により、特徴ある港として魅力づけができるとうよい。
    - ・シンガポールでは、既にフランスの会社が三次元マップを作成して人の流れをシミュレーションする取組を行っている。舞鶴港でも自動運転や物流ロボットの動きに必要な三次元マップを作成できるとよい。
    - ・物流と IoT を繋げることによって、物流拠点に新たな機能を持たせることが可能となる。
  - (2) エネルギーの活用について
    - ・バイオマス発電所などエネルギー関連企業の誘致による雇用拡大への期待がある。
    - ・舞鶴港湾後背地はエネルギー基地として活用が見込まれ、その機能について在り方を検討する必要がある。
    - ・冬季の道路融雪に熱を利用できればよい。
    - ・南海トラフの地震の影響が日本海側は少ないという優位性があるので、バイオマス発電や LNG（液化天然ガス）基地関連の企業誘致を進め、雇用の拡大と物流が活発化につながるとよい。
  - (3) 港湾機能について
    - ・オランダのロッテルダム港は先進地として参考になる。
    - ・ノルウェーのベルゲンは景観が美しい。一方で、100 km 離れた場所で海底油田の支援船基地があるなど上手に機能を分散させている。
    - ・夜の港湾照明の整備促進が必要。
    - ・LNG 船の経由地としての港湾ニーズもアジアで増加している。
  - (4) 観光機能と物流機能の両立について
    - ・欧州では観光機能と物流機能が地理的に分離される傾向がある。
    - ・情報インフラの整備によって一定の機能の分離を図ることも可能である。
  - (5) 観光機能の向上について
    - ・集客のためには非日常を感じられる観光整備が重要である。
    - ・観光客は、情報をスマホで収集するため、WiFi 接続の環境整備が必要である。
    - ・観光客が利用しやすい移動手段（シェア EV（電気自動車）やナビチャリ、水上 EV タクシー）を導入してはどうか。
    - ・自動運転など移動手段自体が観光資源になる可能性がある。

- ・クルーズ船の船客を地元を集客することに期待している。
- ・観光してもらうにはクルーズ船船客の下船時の第一印象が重要である。
- ・ホテルの誘致や夜間のイベントの開催など観光客を滞在させる工夫が必要。
- ・海外からの観光客に向けた英語のウェブサイトの開設や、地元の外国語を話せる人材による観光案内を提案する。
- ・海洋スポーツ拠点（ヨット・SUP（スタンドアップパドルボート）・カヌー・ダイビング、ウィンドサーフィンなど）を整備することが有効。

(6) 物流機能の向上について

- ・IoTの導入によって倉庫機能の拡充が可能となる。
- ・港湾物流の高度化が方向性として示されているが、どこまでやれるかが課題。
- ・北近畿に製造業と流通・物流センターを、積極的に誘致する必要がある。

(7) その他

- ・人、物、情報の流れを考慮し、各機能を最適化することが重要である。

6 事務局から連絡

- ・第2回検討会議は10月下旬頃に開催し、そこで施策の方向性をまとめた中間案を提示。
- ・翌年1月頃開催の第3回検討会議でマスタープランの承認をいただく方針である。

以上